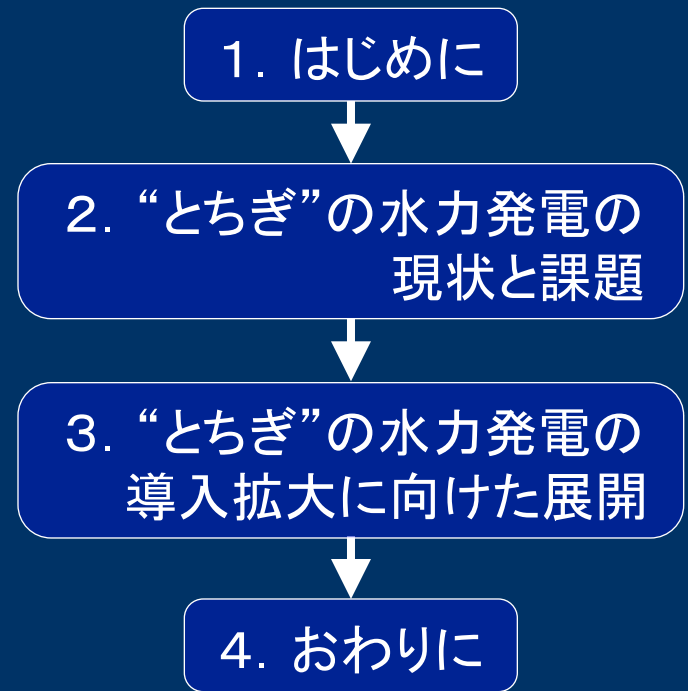


4. おわりに



4. おわりに

(その1)

- ・本日、お伝えした内容。

“とちぎ”が描く
水力発電の導入拡大に向けたシナリオは、

1. 既存施設を有効活用し、早く導入を進める。
2. 豊富な水資源を活かし、新たに開発する。
 - a) 県自ら率先して導入を推進。
 - b) 県が民間事業者を支援し導入を促進。

水力発電の事業化を検討している思川(鹿沼市粕尾)

4. おわりに

(その2)

2. 豊富な水資源を活かし、新たに開発する。
 - b) 県が民間事業者を支援し導入を促進。

①リーディングケースをつくる
「河川活用発電サポート事業」

②他地点へ波及させる

③環境を整え取組みの「すそ野」を広げる
「とちぎ小水力発電！基礎データマップ」
「相談窓口」 など

水力発電の事業化を検討している思川(鹿沼市粕尾)

【業務を通して考えること】

・水力発電(再生可能エネルギー)に取り組む上で、
次の視点が重要ではないか。

①「水循環」を考える。

②環境を「保全」と「資源」で捉える。

※「資源」としての利活用は、技術の進歩と不可分
(技術動向の把握がポイント)

水力発電の事業化を検討している思川(鹿沼市粕尾)



【「つなげよう、支えよう森里川海」ミニフォーラム in 栃木】

“とちぎ”が描く 水力発電の導入拡大に向けたシナリオ

「水循環」と「保全と資源」の調和で捉える再生可能エネルギー

平成27年12月9日

栃木県 環境森林部 地球温暖化対策課

松本 茂